

日本消防



- 『平成25年度消防育英会奨学生懇談会』を開催
- 第21回全国女性消防操法大会 記念Tシャツ発売



8
2013

□ 絵	少年消防クラブ交流会合同訓練を開催 (徳島県)	H25.8.7 (水) ~9 (金)	於	日本消防協会	1
	女性消防団員リーダー会議を開催	H25.7.26 (金)		日本消防会館	
巻頭言	「消防団員の確保について」	公益財団法人 千葉県消防協会	会長	石橋 毅	1
	日消の動き「消防団の歌」	財団法人 日本消防協会	会長	秋本 敏文	3
	豪雨災害状況				4
	公益財団法人秋田県消防協会に災害対策支援金を交付		財団法人 日本消防協会		6
	消防団員紹介「今想うこと」	岩手県田代野畑村消防団 第2分団1部	団員	佐々木 駿也	
		岩手県山田町消防団	団員	倉澤 悦夫	7
	消防団活動事例「水上消防団 常備消防と共に地域を護る!!」	福岡市水上消防団	団長	中西 利之	8
	特別表彰「まとい」を受章して 愛する故郷「おおぐち」	愛知県大口町消防団	団長	酒井 孝	10
	特別表彰「まとい」を受章して 「日々、訓練を重ねて」	香川県三木町消防団	団長	岡田 久	12
	東西南北 (山形)「法被でハッピー—独身消防団員 婚活支援『ポンプ・コン』				
		飯豊町消防団	団長	田辺 隆	14
	東西南北 (福島)「本宮市で育つ次の世代を守るために」	本宮市消防団	団長	國分 良修	16
	東西南北 (長野)「常に学び、前進する団活動を目指して」	佐久市消防団	団長	上原 巧	18
	東西南北 (岡山)「町民から期待される消防団をめざして」	吉備中央町消防団	団長	金森 義美	20
	シンフォニー (福井県)「まずはできることから・そしてこれから」				
		敦賀美方消防組合美浜消防団 女性活動班	団員	谷口 篤美	22
	「消防団の店」現地ルポ -松山市消防団「まつやま・だん団プロジェクト」を訪ねて-				
		赤羽消防団副団長	小澤 浩子		24
	危険物施設等における事故防止について	総務省 消防庁 危険物保安室			28
	外出先での地震への対処	総務省 消防庁 防災課			29
	9月1日は防災の日 防災訓練に参加しましょう~災害に備え、防災知識の向上をめざす~				
		総務省 消防庁 応急対策室			30
	第61回全国消防技術者会議の開催について (ご案内)	総務省 消防庁 消防研究センター			31
	消防個人年金 平成26年1月加入申込み受付中!!	財団法人 日本消防協会 年金共済部			32
	「夏休み魚つかみ会」で熱中症予防をPR!	神田消防署 防火管理係	本多 まり子		33
	目黒消防団念願の定員500人達成	目黒消防署 防災安全係	山下 和彦		34
	消防団120年特別企画「大日本消防」表紙絵	財団法人 日本消防協会			35
	頑張れ!少年消防クラブ (埼玉県)「消防署体験入署で活動力アップ」				
		坂戸地区少年消防クラブ 幹事長	鈴木 英雄		37
	頑張れ!少年消防クラブ (岩手県)「自主防災活動から郷土愛へ」				
		大沢少年消防クラブ 幹事長	十文字 武徳		38
	頑張れ!少年消防クラブ (茨城県)「安全安心なまちづくりに向けて」				
		小美玉市立堅倉小学校少年消防クラブ			39
	『平成25年度消防育英会奨学生懇談会』を開催しました	公益財団法人 消防育英会			40
	第21回全国女性消防操法大会 記念Tシャツ				42
	うちの名物団員				44
	消防団の広場 (岐阜県)「班長としての重み」	多治見市消防団 中央南分団	班長	大橋 宏	46

編集後記

表紙写真説明

「山寺立石寺」

貞観2年(860年)慈覚大師によって開創された宝珠山立石寺は、東北の霊場として、また俳聖芭蕉が訪れたことで有名。

うっそうとした杉木立の中を続く1,000余段の石段を登る途中には、岩塔婆、石仏などがあがり神聖な空間を醸し出している。

また、百丈岩の岩上に納経堂、開山堂などがならんでおり、特に舞台造りの五大堂からの眺めは絶景。

少年消防クラブ交流会合同訓練を開催（徳島県）

平成25年8月7日（水）～9日（金） 助日本消防協会



女性消防団員リーダー会議を開催

平成25年7月26日（金） 於 日本消防会館



「消防団員の確保について」

公益財団法人 千葉県消防協会 会長 石橋 毅



本年は、消防団120年・自治体消防65周年という節目の年であり、11月25日（月）には東京ドームにおいて記念大会が開催されるなど消防団にとって意義深い年であります。

千葉県消防協会も昭和23年6月に財団法人として発足以来、平成24年4月に公益財団法人に移行しましたが、ちょうど65周年となります。

これもひとえに「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の崇高な精神のもと、地域防災のために献身的な活動を行ってこられた消防職・団員や県及び市町村等の消防関係者の諸先輩方の御指導御協力のおかげであります。

協会が発足した昭和23年当時の千葉県の状況は、世帯数40万8千、人口は214万人であり、現在（平成25年6月）では254万8千世帯、619万人と飛躍的に増加しておりますが、昭和30年に8万6千人であった消防団員は平成24年4月には2万7千人へと大きく減少しております。

この原因としては、地域社会、就業構造の変化による総サラリーマン化の進展、地域コミュニティの衰退、少子高齢化社会の到来、常備消防の充実などがあげられておりますが、世間一般での消防団への理解不足、消防職員との混同にもその一端があると思われれます。

一昨年（平成24年）の東日本大震災における消防団員の活躍により、広く消防団の存在が世間に知ら

れるところとなりましたが、まだまだボランティア組織である消防団の組織や活動への一般の理解が不足していると思われれます。

私は、自治会や町内会の集会などいろんな機会をとらえて、消防団活動の内容とその重要性の説明及び入団の勧誘を続けておりますが、なかなか入団者の増加には結びつかない状況です。

昨年末に（財）日本消防協会の依頼により、「消防団員確保のための総合的対策」について県内各消防団から意見聴取した結果は次のとおりでした。

1 消防団の重要性の一層の明確化

消防団設置の法文上の明確化やあらゆる広報を通じて消防団活動を国民の前に明らかにし、一般国民の消防団に対するイメージの向上を図る。

町内会や自主防災組織との連携を深め、地域住民との一体感親近感の向上を進める。

2 国民の評価を高める消防団活動の充実

平時の災害活動はもとより、大規模災害に対応するための常備消防と連携した訓練を重ね、その活動内容を広く公開し国民の一層の防災意識の高揚を図る。

各種補助制度などを創設し、活動に必要な機器装備の充実を図る。

3 消防団の活動環境の改善

消防団員が安全に必要な活動を行うこ

とができる環境整備が絶対的な基礎的条件であり、正確な情報把握と危険回避の手立て、安全のための装備を整備する。

消防団員の報酬・出勤手当・退職報奨金、公務災害補償についても再度見直しを行って、団員が安心して活動できる環境を整備する。

消防団行事の整理を図るとともに被雇用者団員のため、企業側の理解のみでなく消防団協力事業所表示制度などを活用した企業にメリットが生ずる仕組み創りを行う。

これらの意見を参考にして、千葉県消防協会としても「消防団員確保のための対策」を今後進めていきたいと考えております。

なお、個人的には、自治体職員に地域活動への参加として、一定期間の消防団加入を強く奨励し、人事考課の要素とするなどの方法も効果的ではないかと思えます。

消防を取り巻く新しい動きとして消防救急無線の広域化・共同化及び消防指令業務の共同運用の推進の運営があります。

千葉県では県域を1ブロックとした消防救急デジタル無線網を整備し、本年4月から運用を開始しております。

また、従来、それぞれの消防本部で行っていた火災や救急などの119番通報の受信、消防車や救急車の出動指令、無線通信の統制などの消防指令業務を、本年4月から県内2ヵ所（千葉市・松戸市）の共同指令センターで行うことにより業務の効率化、大規模災害や同時火災などへの複数の消防本部による迅速な応援体制の確保が図られました。

また、最近、サークル活動の一環として、大学内に学生消防隊を組織して消防団活動をする、千葉科学大学（銚子市）や淑徳大学（千葉市）などの大学が出てきました。

これらの学生消防隊では、消防操法の訓練を行うほか、地元の出初式に消防団と一緒に参加したり、地元消防団との協定や覚書を締結して地域防災に大いに貢献しており、卒業後も消防職に就職したり地元消防団に入団したりしております。

更に、女性消防団員も平成5年の104名から現在（平成24年4月）の25消防団462名へと4倍強に増加しており、火災予防広報や応急救護、緊急時の避難誘導等に従事しております。

今後、発生が予想されている東海地震や首都直下地震、南海トラフ地震などの大規模災害などに対応するためには、常備消防や警察だけではとても手が足りません。

消防団は、普段の訓練を通じて消防・救急技術を習得し、地域とも深くかかわり、地域の実情に精通しており、また、団員の動員力や即時対応能力が高く、火災の消火、災害時の搜索救助から地域住民への防災指導、交通整理を含めた各種警戒の実施まで、幅広く対応することが可能であります。

そのため、今後とも地域防災の中核を担う消防団の重要性は、ますます大きくなってきております。

サラリーマン団員が大部分となり、高齢化社会を迎えた現在、消防団に入団しやすく、また、活動しやすい環境の整備が急務であり、地域や企業、学校等の理解を得て、学生や女性、退団された消防団員や退任された消防職員の消防団活動への参加を図り、それぞれの立場による活動により地域防災力の一層の強化につなげることが必要であります。

なお、平成26年には第20回全国女性消防団員活性化ちば大会が開催されます。

たくさんの方のおいでをお待ちしております。

「消防団の歌」

財団法人日本消防協会 会長 秋本 敏文

自分たちの歌をもっている消防団が全国各地に多数あります。集会や訓練などで歌って、士気を高めたり、団員同士の絆を強める意味をもっているのでしょう。

今年11月の消防団120年などの記念大会の時にも皆さんで歌って頂ける消防団の歌が欲しいと思って、全国の消防団の歌を相当多数集めてみました。丁度ぴったりの歌があるのではないかと思ったのです。それぞれいい歌なのですが、どうしてもその土地の山や川などが歌い込まれていて、全国共通の歌にできるものはありませんでした。10年前の自治体消防55周年の時には「君を守るフォーエバー」という新しい曲を平尾昌晃さんにつくって頂き、コーラスの皆さんに歌って頂いたのですが、新しい歌を全国の消防団の皆さんに覚えて頂くのはちょっと大変です。

さあどうしようとみんなで相談したのですが、誰もが知っていて、歌いやすくて、消防団にぴったりの歌の替歌をつくってみようかということになりました。そこで、いろいろ考えた末の結論は消防応援団でもお世話になっている水前寺清子さんの「365歩のマーチ」の替歌をつくらうということでした。このような大ヒット曲の替歌というのは例がないようですが、幸い水前寺さんなどのご了解を頂きましたので、歌詞を公募しました。そして、応募のあった157編について作詞の星野哲郎さんと作曲の米山正夫さんのそれぞれのご息などに入って頂いた審査会で満場一致決定したのが、宮城県の後藤さんご夫妻の作品でした。決定してから調べますとご主人は消防職員、奥さんは消防団員というお二人でした。1番の出だしが「父ちゃんは消防団員、地域を守るヒーローさ」、2番「母ちゃんも消防団員」、3番が「よし僕も消防団員将来なってみせるんだ」とありますので、まさにお二人のものでした。

7月24日、この「消防団 365歩のマーチ」のCDが発売されました。替歌のほか、もとの本物の歌、カラオケ、行進曲が入っています。おまけにカラオケ屋さんで歌うこともできます。

11月の大会までに皆さんに練習して頂いて、最後に3万人の大合唱になると凄い迫力になるでしょう。

大会では、このほか消防団を歌った歌として最近人気がある「笑顔のふるさと築くため」を栗田ケンジさんに歌って頂くほか、大会スローガン「消防 その愛と力」にふさわしい歌を、水前寺清子さん、布施明さん、AKB48の皆さんに歌って頂きます。

11月の記念大会は、記念式典、消防百年の歩みのほか、このような歌などでも盛り上げ、日本消防の新たな発展への大きなステップにしたいと思っています。



豪雨災害状況

(山口県)

平成25年7月28日山口県地方に発生した豪雨災害状況です。(写真提供：山口県)

財団法人日本消防協会は非常用食料交付要綱に基づき、現場活動に従事した消防団員を支援するため、公益財団法人山口県消防協会に非常用食料を交付しました。

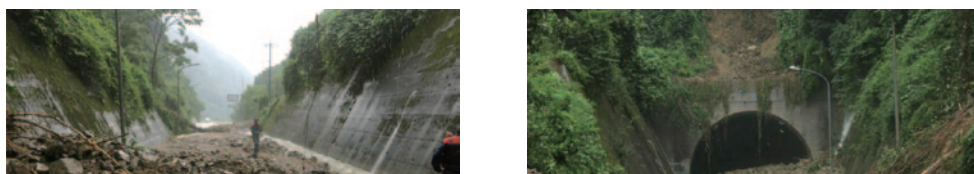
平成25年7月28日 山口県阿東町付近の状況



平成25年7月28日 山口県萩市 中津区付近の状況



平成25年7月28日 山口県萩市 金山谷トンネル付近の状況



平成25年 7月28日 山口県萩市 唐津地区の状況



平成25年 7月28日 山口県萩市 須佐トンネル付近の状況



平成25年 7月28日 山口県萩市 大刈トンネル付近の状況



平成25年 7月29日 山口県萩市 阿北苑付近の状況



(山形県)

平成25年 7月18日山形県に発生した豪雨災害状況です。(写真提供：山形県)

平成25年 7月18日 山形県大江町 月布川付近の状況



公益財団法人秋田県消防協会に災害対策支援金を交付

(財)日本消防協会

平成25年8月9日からの豪雨により、秋田県内各地で河川の氾濫や土砂崩れが発生し多数の死者や行方不明者、住宅の全半壊等甚大な被害が生じました。この災害に対し、多くの県内消防団員や関係機関によって、懸命な水防活動や人命救助活動が行われました。

財団法人日本消防協会では、災害対策支援金要綱に基づき、災害活動に従事した消防団員を支援するため、公益財団法人秋田県消防協会に災害対策支援金を交付しました。



災害対策支援金を贈呈

消防団員紹介

「今想うこと」

平成23年3月11日の東日本大震災発生時に、ご家族が消防団員として活動中に亡くなられ、その後、その想いを胸に地元消防団に入団された方々のご紹介をいたします。

岩手県田野畑村消防団 第2分団1部 団員 佐々木 駿也



震災で父が亡くなり、父と親しい人が何人もなくなりました。多くの命と故郷と思い出を奪った大震災。私は自然に対する人間の無力さを感じました。

父は消防団活動に積極的に参加していました。もちろん震災当日もです。自分の命を省みず、最前線で立ち向かっていった理由は何だったのか。消防団に入団した今の私にはわかります。大津波襲来を想定し、漁をする方々の船の係留中に逃げ遅れ命を落とした父ですが、地元の人々の命だけでなく、財産にも注意を向けた活動でした。私は父が身をもって得た経験を私たちの世代や、生まれて8ヶ月になる息子の世代のために生かそうと思います。

大災害が起こる前の備えとして、父が行ったようなことを呼びかける運動を消防団が先頭を切っで行うこと。そして、震災の記憶を何世代も語り継ぐ事が大切だと思います。

私も父と同様に、消防団に入り、そして家族ができました。父が果たせなかった様々な事を、今度は自分が果たし息子につなげていきます。

岩手県山田町消防団 団員 倉澤 悦夫



平成23年3月11日に発生した東日本大震災当時、私は神戸市の有馬温泉で働いていて、震災は体験する側でなく、テレビで見る側でした。家族とはようやく連絡が着きましたが、兄とは連絡が取れず、数日後兄の遺体が見つかったと連絡が入りました。

兄の死という現実があり、すぐにも帰りたかったのですが、仕事などでなかなか帰れず、自分は何をしているのだろうと自分の無力さを感じ悔しい思いをしました。ようやくまだ瓦礫が残る中、山田町に帰り、その風景を見たときは信じられない思いでした。

ガレキが片付けられ、きれいになっていく街や地域の方々との触れ合いの中で地元の良さを再認識し、少しでも地元に貢献できればという気持ちが芽生えてきました。そんな時、消防団に入っている友人から入団を勧められ、震災当時の活動について話を聞き、消防団活動に興味を持ちました。また、地元の分団長さん方にも誘っていただき、入団を決意しました。

兄の代わりという訳ではありませんが、兄と同じ仕事に就き、消防団にも入って、地域の方々の生命・財産を守るよう使命感をもって消防団の活動を私なりに頑張っていこうと思います。

消防団活動事例

「水上消防団 常備消防と共に地域を護る!!」

福岡市水上消防団 団長 中西 利之



1 福岡市の紹介

福岡市は、全国的にも人口減少が進む中で平成25年5月に人口が約150万人を突破するなど、元気で活発な街です。総面積は、341.70km²を有しており、日本海（博多湾・今津湾・玄界灘）に面した半月形の福岡平野の大半の部分を市域としています。

南部は脊振山地内まで市域が伸びており、佐賀県と隣接しています。また、有人島しょとして、博多湾内の能古島や市の西部で博多湾口付近の玄界灘に浮かぶ玄界島、そのさらに西北部にある小呂島を市域に含んでいます。

福岡といえば、「もつ鍋」や「水炊き」、「ラーメン」といったイメージがありますが、「海産物」も豊富で、全国でもトップクラスの漁獲量を誇ります。玄界灘では、サバ、アジ、イカ、タイなどが水揚げされ、牡蠣やワカメの養殖も盛んに行われており、おいしいと評判です。福岡（博多）に來られた際には、是非、新鮮な海産物をご堪能ください。

2 福岡市水上消防団の概要及び活動

水上消防団は、昭和30年4月にそれまで水難事故に出勤していた救難所を水上消防団として発足することとなり、5救難所162名が水上消防団の団員となりました。

現在では、1団11分団（東区3分団、中央区1

分団、西区7分団）303名（女性団員22名）で構成されています。ほとんどの団員が漁師で、火災現場はもとより、昼夜を問わず漁船に乗り込み水難救助事案にも数多く出勤しています。

また、島しょ部（能古島、玄界島、小呂島）の消防団にあつては、救急事案でヘリコプターや消防艇が出勤するため、常備消防と無線等で連携を図りながら、ヘリポートや渡船場まで傷病者を搬送、ヘリポートでの安全管理及びヘリコプターの誘導等を行っています。

・水難救助出勤件数

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
21	33	49	18	35

・離島救急件数

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1	7	7	12	19

3 常備消防との合同水難救助訓練

平成17年度からは、海上における水難救助事案にも災害を覚知した時点で、災害救急指令センターから水上消防団に対して出勤指令を行い、出



動するようになりました。その後、水上消防団と常備消防との水難救助活動等の訓練も定期的を実施するようになるなど、水難救助事案時の活動要領の習熟に日々努めてまいりました。

平成20年度及び平成21年度は、溺者を船舶に引き上げる要領等の水難救助活動における基本的な訓練を多く取り入れ、平成22年度及び平成23年度に入ると、情報収集や広範囲の搜索活動、指揮隊及び救助隊との連携強化など応用的な内容を訓練に取り入れ、更なるレベルアップを図りました。

さらに、平成24年度は、出動指令から要救助者を救急隊に引き渡すまでの実戦さながらの想定訓練を取り入れるなど、これらの訓練の積み重ねが着実に活動能力の向上につながっています。

活動実績としましては、昨年度は、35件の水難救助事案に出動し、常備の消防隊や救助隊と連携しながら活動にあたっています。それらの事案の中には、水上消防団のみで救出した事案もあり、福岡市内の水難救助事案に対して非常に大きな役割を担っていることを自覚し、我々は日夜訓練に励んでいます。

今後も、水上消防団と常備消防との合同訓練等を通じて、さらに連携を深め、署団ががっちり手を結び、福岡の海の安全をしっかりと護ってまいります。

※ 主な訓練内容

- 1 水上安全法の確認
 - (1) 浮環投入訓練
 - (2) 救助活動時のロープワーク
- 2 漁船を活用した訓練
 - (1) 各分団が所有する漁船による海上搜索
 - (2) 各種想定訓練
- 3 心肺蘇生法
- 4 水難救助事案発生時の活動についての事後検証



4 その他の合同訓練

水難救助訓練の他にも、常備消防との火災防ぎょ訓練はもちろんのこと、離島における救急事案に対応すべく、航空隊や消防艇、救急隊を含めた合同訓練を行っています。

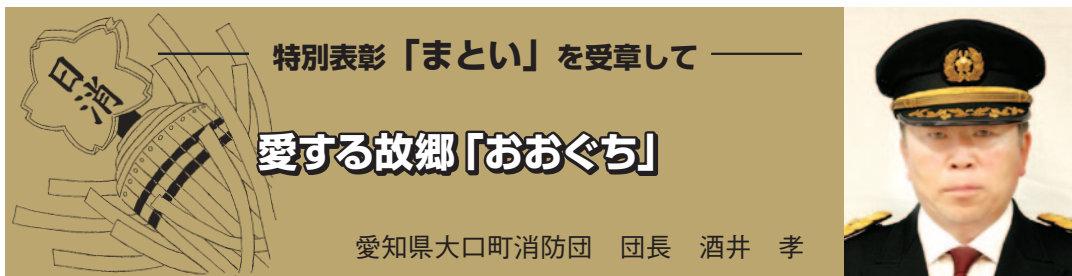
離島救急事案発生時においては、「傷病者に接触」し指令センターに状況を伝え、「常備消防に引き渡す」といったように重要な役割を果たします。傷病者の速やかな搬送を実施するため、無線運用やヘリポートでの安全管理、誘導などの訓練を実施しております。



5 おわりに

私たち水上消防団は、福岡市の中心部、周辺部、離島といったさまざまな形態の地域を護っています。それぞれの地域の特性に合わせた訓練を行い、常備消防と共に地域住民の安心できる街づくりを行っていかねばなりません。

また近年、団員の確保が困難になってきてはありますが、私たち消防団が熱意を持って地域住民のために活動を行い、地域の「ヒーロー」になることでその問題も解決すると信じて、これまで以上に地域を護るための活動を行ってまいります。



はじめに

平成25年2月26日、日本消防会館ニッショーホールにて行われた「第65回日本消防協会定例表彰式」において、特別表彰「まとい」を授与されるという、消防団員として最高の榮譽を体験できたことは生涯忘れることのない思い出の1ページとなりました。

これもひとえに大口町消防団の諸先輩方、団員やその家族、さらには尾張地区消防団の方々の力添えの賜物と衷心より感謝申し上げます、この受章に恥じぬよう団員とともに日々精進し、住民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを目指します。



まとい

大口町について

大口町は、愛知県の北西部に位置し、面積13.58km²、人口約23,000人の小さな町です。町の面積の約4割を水田が占める緑豊かな田園風景が広がるまちであるとともに、主要国道が町内を走り、また、名神小牧インターチェンジから数キロという恵まれた立地であるため、大手工作機械メーカーや自動車関連部品会社の本社工場があるなど、工業も盛んなまちです。

また、町の中央を流れる五条川の堤防沿いには約2千本の桜が植えられ、毎年4月頃には多くの方が観光に訪れます。

日頃の活動について

主な活動は、4月の任命式以降、新入団員研修から始まり、5月は近隣市町が合同で行う大規模な水防・防災訓練へ参加して様々な工法による水防技術を学びます。6月は新入団員に対する基礎技術の習得を主な目的とした町小型ポンプ操法大会を開催し、日頃の訓練の成果を住民の方々に披露しています。9月に行われる町の防災訓練以降は、観閲式、火災予防週間の啓発、年末夜警と続きます。

1月の消防出初式は、一部事務組合の丹羽消防署が中心となり、構成自治体である扶桑町の消防団とともに合同で行います。春の火災予防週間は、町内にある保育園、幼稚園を巡回し、子どもたちへの防火啓発を行っています。

このほか、夏や秋に町内で開催されるお祭りなどのイベントにおいても警備だけではなく、地域住民の方々と同じように参加し、消防団活動のPRや防火啓発なども行っています。

最近では、踊りのイベントに消防団チームを結成して参加しています。



出初式での一斉放水



町内ダンスイベントでのPR活動



保育園での防火パレード

新しい取り組み

平成24年度から、10名の女性で構成される予防啓発班を試験的に立ち上げ、平成25年度より正式に活動を開始しました。主に子どもたちを対象とした防火啓発活動や、女性ならではの視点に立った活動を行っていく予定です。

まだまだ始まったばかりの取り組みですので、試行錯誤を繰り返しながら少しずつ発展させ、消防団の活性化につなげていければと思います。

おわりに

私たちの住むこの地域でも、大地震による甚大な被害予想がされています。しかし、残念なことに、東日本大震災の発生から時が経過するとともに、震災に対する危機意識が忘れられつつあるような気がしています。

私は、東日本大震災直後の4月に友人と供に釜石にて炊き出しの活動を行ってきました。その日は朝から冷たい雨が降っており、提供するうどんの準備が整ってくると、少しずつ住民の方々の列ができ始めました。その中に、小学校2～3年生と思われる女の子がいました。しばらく時間がたつと、またその子が並んでおり、内心「うどんが好きなんだ」と思っていました。3回目も並んでいるので思わず「うどん美味しい？」と声をかけました。すると、にっこり笑顔で「おじいちゃんがうどん食べたいの」との答えでした。その笑顔は忘れることのできない思い出となり、一日も早い復興を望み帰途につきました。

また、過日の講演会の中で、宮城県の

消防団員の方の話を拝聴しました。

その方の友人と団員2名が消防車両に乗り、最後の最後まで住民避難の誘導をされましたが、残念なことに津波の犠牲になられました。

このように、時として我々消防団員は危険を顧みず行動することがありますが、それは使命感、郷土愛からくる行動ではないかと思われれます。

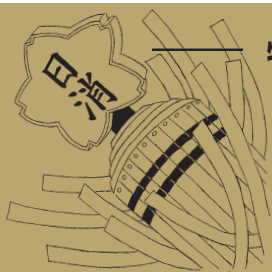
このような悲劇は、今後の消防団活動の在り方を再認識することにより、亡くなられた方、残された家族、団員の方々に報いる道ではないかと思えます。

我々も、いつ、何時、やってくるか分からない大きな災害に備え、心身ともにより一層鍛練、研磨し、地域の方々に頼もしく思ってもらえる希望ある消防団づくりを目指してまいります。

最後に、今回の受章にあたり格別のご配慮を賜りました日本消防協会をはじめ、消防関係機関各位の皆様へ深く感謝を申し上げ、受章のあいさつとさせていただきます。



県操法大会初優勝



特別表彰「まとい」を受章して

「日々、訓練を重ねて」

香川県三木町消防団 団長 岡田 久



はじめに

三木町は香川県東部に位置し、住宅地と田園が共存する人と緑が豊かな町です。そして香川大学医学部・農学部、県立三木高校が所在する文教の町でもあります。

また、毎年秋に開催されるまつり「獅子たちの里 三木まんで願。」が知られており、三木町消防団は事故の無いよう警備や警戒を担当し、地域に貢献しているところです。

日頃の活動

私たち消防団は、「自らの地域は自らで守る。」という精神に基づき、災害時の活動はもとより、平常時の防火啓発活動など地域防災の要として消防団創設時から重要な役割を果たしてきました。この重責を担うため私たち消防団員は消防防災に関する知識と技能の向上を念頭に日々訓練に精進

しています。これら日々の訓練は時節に合わせて計画しており、その訓練内容を町広報誌に掲載することで、住民への注意喚起を図るとともに消防団活動のPRも推進しています。ここで私たち消防団員が取り組む主な年中訓練等をご紹介します。新年は恒例の出初式から活動を始め、1月26日の文化財防火デーには、町内の神社仏閣等で文化財防火訓練の実施、3月1日～7日の春の全国火災予防運動期間には、火災予防防火宣伝と林野火災防ぎょホース中継送水訓練の実施、6月の出水期前には、土砂災害にかかわる防災訓練の実施、11月9日～15日の秋の全国火災予防運動期間には、火災予防防火宣伝の実施と三木町総合防災訓練の参加、12月末には、年末警戒の実施と訓練年数を重ねる度に精度を高めてまいりました。また、本来の業務とは別に全消防団員230名の健康増進と分団間の親



出初式行進



林野火災防ぎょ訓練



総合防災訓練 水防工法

睦を図るため消防団スポーツ大会を毎年開催しています。このスポーツ大会は30年近くの歴史があり、団員が26チームに別れ、和気藹々とした雰囲気の中、3日間に渡り団体球技（平成24年度はソフトバレーボール。）の頂点を争っています。この大会を繰り返し開催したことで、分団間（団員間）の意思疎通が容易になり、災害現場において、安全で円滑な連携作業ができるようになりました。



スポーツ大会

これからの取り組み課題

近い将来、発生が予測される東南海・南海地震による被災が想定される本町では、今後ますます住民から消防団に寄せる期待は大きくなるものと考えています。このよ

うな状況の中、地域住民の負託に応えるため常備消防との連携強化をさらに図りつつ消防団特有の地域密着性や即時対応力を活かした実践的な地域の防災訓練に積極的に参入したいと考えています。平常時の自主防災組織単位訓練において団員が参加することで訓練運営を補助し、組織の活性化並びに近隣組織への波及効果の一助にならないものかと考えています。このような活動を地道に展開し、私たち消防団は地域に広く根をはり、有事には自主防災組織と協力し、避難者の誘導、被災者の救助、救護等を迅速に行えるよう信頼関係をより深めていくことを今後の課題としています。

おわりに

三木町消防団は、郷土愛護の精神と熱意を持ってあらゆる災害から住民の生命・財産を守り続けます。

このたび受章した「まとい」を三木町消防団の誇りとし、今後も消防の使命達成のために努力してまいります。

最後に、最高の栄誉を受章するにあたり格別のご高配を賜りました消防関係各位に深く感謝申し上げます、受章のお礼とさせていただきます。



受章町長報告



—法被でハッピー— 独身消防団員 婚活支援 『ポンプ・コン』



いいでまち
飯豊町消防団 団長 田 辺 隆

1 飯豊町の紹介

飯豊町は、山形県の南西部に位置し、人口8千人弱、面積329.6km²です。

北東部は、置賜白川の水と肥沃な耕地で良質米（つや姫など）を生産し、丘陵地は肉牛（飯豊産米沢牛）の産地。南部は、飯豊連峰が連なり自然豊かな地域である。

1993年美しい日本のむら景観コンテストにおいて生産部門 いいで田園散居集落景観が農林水産大臣賞。1995年第10回農村アメニティ・コンクールにおいて最優秀賞を受賞。また、手つかずの自然あふれる飯豊連邦、その流域に広がる田園散居集落、雪国の暮らしが根付く民家や草木から得られる恩恵に感謝する草木塔がある中津川地区里山風景と里山文化の3つ地域資源が認められ、平成20年NPO法人「日本で最も美



平成25年度飯豊町消防演習
飯豊町消防団 音楽隊

しい村」連合に加盟が認められました。

2 消防団の概要

飯豊町消防団は、平成25年4月1日現在6分団20部35班体制で構成され、団員422名で司令車1台、消防ポンプ自動車2台、積載車11台、軽積載車12台、小型ポンプ9台、D-1級2台、軽資材搬送車1台を配備し、安全・安心の確保に日夜努めています。

平成15年に横浜市で開催された第16回全国女性消防操法大会に出場し準優勝、個人賞として3名の隊員が優秀選手賞を受賞しました。

3 消防団の活動

飯豊町消防団は、団員確保等の活性化事業、団員の安全管理等に関する安全管理事業、広報紙発行の広報事業、訓練事業、一



飯豊町消防団 応急手当指導員講習

般家庭・自主防災への防火指導事業、消防施設管理事業、町行事参加の地域貢献事業を実施。この事業には、副分団長以上で担当者を決め、団員の技術と資質の向上を図っています。

昭和62年発足の音楽隊は、消防演習等はもちろん、さまざまなイベントに参加して、演奏活動を実施。演習時には、女性団員の各個訓練を披露、町民・来賓者より盛大な拍手をいただいております

消防団活性化事業の一つ、婚活支援「ポンプ・コン」を実施しました。パートナーを探す機会の少ない団員に対し、消防団の機動力を使い、飯豊町、やまがた婚活サポートセンター、町内のレストランの協力を得ながら、男性参加者には、事前にフリーアナウンサーを講師に女性との話し方、服装の注意点など「男磨き講座」の講習会を実施。全参加者には、内容を伝えず、ミステリーツアー的な要素を取り入れ、そば打ち共同作業、ボウリングなどをし、参加者同士の会話がはずむようにしました。

男性は、飯豊町消防団員。女性は、町内不問の独身の方。広報の方法は、実行委員会で募集チラシを作成し町内外の主要場所への配布、町Webサイト、やまがた婚活



平成25年度飯豊町消防演習
各個訓練 女性団員

サポートセンターへ告知。男性12名、女性10名の参加で盛大に実施し、1組のカップルが誕生、成功裏に終わりました。

4 おわりに

最近、飯豊町外の企業等に勤めている団員が多く平日日中の火災・災害に対する対応に苦慮しております。それをカバーしていただくため、消防団員OBを機能別消防団員になっていただき災害対応をしております。

今後とも、地域の方々の協力を得ながら、団員確保ができるような事業および地域に密着した事業を継続し、安全・安心のまちづくりを目指し、団員一丸となり邁進していきます。



ポンプ・コン ロゴマーク



ポンプ・コン（そば打ち共同作業）



「本宮市で育つ次の世代を守るために」



本宮市消防団 団長 國分 良修

1 本宮市の紹介

本宮市は、平成19年1月1日に本宮町と白沢村が合併して、世帯数9,414戸、人口31,826人の福島県内13番目の市として誕生しました。

秀峰「安達太良山」を背景に、市の中心を豊かな「阿武隈川」が流れ、奥州街道の宿場町の面影をしのばせる街並みとともに、対岸には「阿武隈山系」の裾野に展開する田園と丘陵地が、豊かな景観を織りなしています。

本市は、福島県のほぼ中央に位置することから、いにしえより交通の要衝として栄え、現代においても東北自動車道・本宮インターチェンジを有し、磐越自動車道と交

差します。郡山ジャンクションに最も近接していることから、「陸の港」そして「福島へのそのまち」として重要な位置を確保し、未来に向けて成長を続けるまちです。

2 消防団の組織

本宮市消防団は、平成19年の本宮市発足に伴い、旧町村の消防団統合により誕生しました。

現在は2方面隊、14分団、団員538名（定数541名）、消防車両29台で活動を行い、本部は団長、副団長、本部付分団長、分団は分団長、副分団長、部長、班長、団員から構成されています。旧町村の消防団組織を維持してはいますが、旧町村の垣根を越え、地域に密着した消防団活動を展開しております。

3 今までの消防団の活動について

本宮市の中心には「阿武隈川」「五百川」「安達太良川」の一級河川が通っており、豊かな半面、昭和61年の「8.5水害」など、何度も水害に悩まされてきました。平成23年9月の台風15号が福島県を縦断した際にも、水害を最小限に抑えるため、水防団として土のうを積み、ポンプ車で冠水した道路の排水作業をするなど迅速に対応してきました。それら水害への備えとして、福島



県内では珍しい「和舟こぎレース」を水防訓練の一環として、市の夏まつりの中の一行事としても実施しております。過去の水害でも、和舟を使用した水害救助を行った実績を持ち、高速道路内での市の標識にも、和舟を漕ぐ消防団の絵が採用されるなど、市の一つの伝統として多くの方に認知されています。

その他にも、日々訓練に励んでおり、出初め式、福島県消防協会本宮支部の春季・秋季消防連合観閲式、中継送水訓練などで成果を披露しているとともに、団員には地域行事、祭りに率先して参加してもらい、地域住民との絆を深めることで消防活動時の協力体制を築き、防災力向上に努めています。

4 東日本大震災時の活動

震災当時は、市内2カ所の浄水場が破損や停電により機能せず、施設周辺の市民への給水が止まるという事態となりました。このことにより、不安を募らせている市民への断水という追い打ちを避けるべく、浄水場への消防ポンプ車による給水作業を昼夜通して行い、なんとか断水を防ぐことができました。

その他にも、被害状況の確認や安全確認を行い、市民のみなさんから多くの感謝の言葉をいただきました。災害を通して、消防団の必要性を改めて認識しました。

沿岸部では救助活動中に亡



水害救助活動

くなった消防団員もいます。団員には「私たちが元気を出して故郷を守らなければならない」と話していますが、危険な現場への出動を止める勇気も必要であり、今後も団員の安全管理に努めます。

5 おわりに

近年の消防機材の進歩は目覚ましく、消火能力も高まっていますが、最後に必要なのは人の力です。若さと行動力で消防団をまとめ、本宮市に育つ、次の世代のために今後さらに精進していくことを誓います。



市内分列行進



「常に学び、前進する 団活動を目指して」



佐久市消防団 団長 上原 巧

1 佐久市の紹介

佐久市は長野県の東に位置し、面積は423,990㎡、人口約10万人の中核都市で、北に浅間、西に八ヶ岳連峰が一望できる風光明媚な環境にあり、市の花はコスモス、市の魚に指定されている佐久鯉が全国的に有名です。

平成17年に1市2町1村の市町村合併によって新佐久市となり、国内最古級の歴史的建造物である旧中込学校や、函館の五稜郭と共に日本で二つしかない、星型の堀に囲まれた龍岡城五稜郭など貴重な史跡が数多くあります。

1988年の長野オリンピックに合わせて上信越自動車道が整備され、長野新幹線が開通したことで、東京近郊まで通勤圏内とな



内山のコスモス

り、都市化が進み物流も盛んになっています。市内にある成田山道の「ぴんころ地藏尊」は“健康で長生きして（ぴんぴん）、寝込まず楽に往生する（ころ）”をヒントに命名され、男女とも長寿日本一の県ならではの観光スポットとして、有名になっています。

2 佐久市消防団の概要

佐久市消防団は、昭和36年に発足し、変遷を経て、平成17年新市政の元佐久広域連合の3消防署と共に新たにスタートしました。

現在は団本部、5方面隊、23分団、47部、ラップ隊、音楽隊、計1787名の団員で構成され、消防ポンプ自動車17台、小型動力ポンプ付積載車34台、小型動力ポンプ118台を配備し、防火、防災活動に従事しています。



ポンプ操法大会



消防出初式

3 消防団の活動

佐久市消防団は、火災や風水害の出動はもとより、市民の安全を保持するため、様々な災害に柔軟に対応できるよう訓練を重ねています。

4月は新入団員、幹部を対象とした「規律訓練」、6月には柳田清二市長を大会長とした「消防ポンプ操法並びラッパ吹奏大会」が開催され、全分団が練習を積み重ねて全力で臨みます。また、大規模な山火事を想定した「山林火災対応訓練」や地域住民の命を守る「普通救命講習」、災害現場活動における事故や怪我を防止し、身を守るための「危険予知訓練」。

増加を続ける搜索活動の一環として開催した「認知症サポーター養成講座」は、3年間で延べ2400人が積極的に受講し、自分たちの力で地区を守ろう！という地域愛と団員の熱い思いが伝わってくる講習会となりました。

市には24名構成の音楽隊があり、地域のイベントに積極的に参加しています。心に染み渡る音色を通して、火災予防PRや地域住民との親睦を深めています。秋に開催される「定期演奏会」

は大好評で、毎回心待ちにしているファンで満席になるほどの盛況ぶりです。

また、市をあげて実施する佐久鯉祭や、ホンダグランプリ佐久バルーンフェスティバル、千曲川の野沢大花火大会など各地域のイベントに参加し、防災と安全のチームリーダーとして活躍しています。

4 おわりに

サラリーマン団員が増加している中、佐久市では『消防団協力事業所』が93事業所と、県下で一番の支援体制が確立され、4月から災害情報を全団員へ瞬時に発信するシステムも導入し、出動に万全を期しています。

浅間山の噴火、地震、異常気象に伴う豪雨、突風、急傾斜地の土砂災害、搜索活動など、消防団員に対する住民の期待は年々高まってきています。

地域に住み、地域と共に暮らし、信頼され愛されている消防団だからこそできる、血の通ったきめ細かな活動をめざし、これからも常に学び、前進し、たゆまざる努力と研鑽を続けていく所存です。



消防音楽隊定期コンサート



「町民から期待される 消防団をめざして」



吉備中央町消防団 団長 金森 義美

1 吉備中央町の概要

吉備中央町は、加茂川町と賀陽町の2町が合併し、平成16年10月1日に誕生した町で、総面積は268.73km²、世帯数は5,579戸、人口は12,746人（平成25年6月1日現在）となっています。

本町は、岡山県の中央に位置し、南は県庁所在地の岡山市に接し、岡山市から本町の中心部までは車で約1時間、岡山空港からは約30分の距離にあります。地勢は、岡山県と広島県に広がる吉備高原の東部で、標高120から500mの高原地帯に位置し、比較的



入団式

緩やかな地形とやや内陸性で県南部より冷涼な気候となっています。こうした自然環境が農業に適していることから、昔から農業が基幹産業として発達してきました。

町内には国指定の重要文化財や民俗文化財が数多くあり、県下三大祭りの内のふたつ、加茂大祭と吉川八幡宮当番祭が受け継がれるなど、古き良き“心のふるさと”と呼べる風土が息づいています。また、高原の自然環境を生かし、教育・福祉・文化の中心地をめざした21世紀の未来都市「吉備高原都市」の開発がすすめられています。



現地訓練（妙本寺）



操法大会

2 消防団の組織

吉備中央町消防団は、加茂川町と賀陽町の2町の合併に伴う消防団の合併により誕生しました。合併当時は、1本部2方面隊1機動隊を含む9分団23部で編成されていましたが、平成22年4月には方面体制を廃止し、平成24年4月には部の再編を行いました。

平成25年4月現在、ラップ隊、女性消防隊を含む1本部8分団18部、団員640人（定数765人）で組織されています。消防車両は、指令車1台、消防ポンプ自動車6台、積載車17台を配備し、各分団が管理運用しています。

3 消防団の活動状況

吉備中央町消防団は、8分団から成り、分団にはそれぞれ部を擁しています。部では、部長の指揮のもと毎月消防機材の点検整備を行い、非常事態に備え常に万全の態勢を執っています。また、団員訓練についても操法訓練、幹部訓

練、総合訓練、消防署出張所との合同消火訓練など年間計画に従って実施しています。予防活動については、年2回の火災予防運動期間中には防火パレードを実施し、年末には年末警戒の夜警巡視を2日間実施し、火災予防の啓蒙に努めています。

4 おわりに

平成22年の方面隊制の廃止に続き、平成24年には、部及び分団の再編を行い、新生吉備中央町消防団として新たなる一步を踏み出しました。団員一人一人が一本化の意義をしっかりと心に刻むことで、組織がより強固になるものと確信しております。

また、消防団は、火災予防・消火・救助等幅広い消防防災活動にあたるとともに、災害発生時には、第一線で活動する重要な任務を行う機関です。災害による被害を最小限に抑えることができ、いざ災害が発生したときに他の防災機関との連携体制の確立が必要なことから、地域とのコミュニケーションが図られ、より災害対応能力のある町民から期待される消防団づくりをめざしています。



防火パレード出発式



シンフォニー（福井県）

「まずはできることから・ そしてこれから」

敦賀美方消防組合美浜消防団 女性活動班 団員
谷口 篤美

我が町、福井県美浜町は若狭湾を望む福井県の中心部に位置し、特別名勝地域に指定されている「三方五湖」を有する風光明媚な所でございます。人口は約1万人ほど。演歌歌手・五木ひろしさんの故郷でもあり、毎年開催されます「美浜・五木ひろしマラソン」にはご本人も出場され、沢山の参加者と共に大いに盛り上がるイベントになっています。

現在、美浜消防団は4ヶ分団・総勢233名（定員233名）で構成されており、私達女性消防団員は平成23年4月に8名が初任用され、火災予防啓発活動及び広報活動等を中心に活動しています。



AED取扱い研修

メンバーは、事業所の自衛消防隊での経験を活かすために入団した方、職場や友人からの勧誘、町の団員募集記事で入団された方など、職種も年代も様々でキャラクター豊かな団員が勢揃いです。それぞれ忙しい中、仕事の合間を縫ってイベントや研修に積極的に参加しています。

初年度は、まず訓練礼式を学び、敦賀美方消防組合消防大会において地域住民の方々の前で分列行進を行い、管理者の観閲を受け、消防団員としての自覚が芽生えました。

また、救急医療週間では、同様に初任用された敦賀美方消防組合の構成市町で美浜町と隣接する敦賀市及び若狭町（旧三方町行政区域）の女性消防団員の皆さんと共に普通救命講習を受講後、管内の量販店において普通救命講習受講啓発や救急車の適正利用の広報活動を行いました。さらに、火災予防運動週間における広報活動や消防操法大会、出初式へも参加させていただきました。

平成24年度からは、地域

の防災訓練に参加することで地域住民の方とより多くの関わりができ、救急救護訓練、消火器の取り扱い等率先して指導の補助にあたることで、住民の方に女性消防団員の活動を認知していただけたと思います。

本年で結成3年目を迎え、消防団操法大会出場に向け訓練に励む地元男性消防団員の勇姿を目にし、私達なりに消防団員として心新たにしました。

今年の春季火災予防運動では、スーパーの店頭で住宅用火災警報器の設置状況の確認や火災予防啓発活動などと共に、研修で学んだAEDの操作方法を説明するなど、啓発活動を行いました。

小さなお子さんを持つ親御さんだけでなく、ご高齢の方も興味を示してくださり、AEDを目にした事はあっても実際に触れて作動させた事が無い方にとって「音声ガイドに従い操作すれば万が一の時に役立つ心構えができた。」等の嬉しい声を頂戴しました。

どの地方でも高齢化が進んでいるとは思いますが、我が美浜町も高齢化や一人暮らしの老人も増えている状況で、ご高齢の方への火災予防や救急対応などの啓発活動は益々必要だと実感しています。

私自身、人工呼吸器を装着した親の介護生活ということもあり、救急隊員の方には緊急を要する危機的状況から何度もレスキューいただき非常に助けられた経験があります。何らかの形で消防活動に関わり恩返しが出来ればという思いでおります。

火災も救急も一番大切な「人の命」の危険と隣り合わせの密接な関係にあり、万が一の時の為の訓練、万が一に至らない為の予防、どちらも大切な事柄であると今までの消防団活動を通じて肌身に感じています。

私達は消防団員としては駆け出しで、まだまだひよっこですが、ご近所同士の顔がわかる地域だからこそ皆で支え合い、慈しみ合って、安全で安心な住みよい町にしていきたいと強く願っています。

消防職員の皆さんや先輩団員の方々には、不慣れな女性消防団員に色々とお気遣いを頂いて感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も消防関係者の皆さんのご指導を仰ぎながら、女性消防団員ならではの元気な笑顔と、きめ細かい配慮を忘れることなく、老若男女を問わず親しまれ、地域に根ざした活動を目指し、より一層積極的に取り組んでいければと思っています。



心肺蘇生法、AED取扱い体験

「消防団の店」現地ルポ

一松山市消防団 「まつやま・だん団プロジェクト」 を訪ねてー

赤羽消防団副団長 小澤 浩子



「消防団の店」の現地ルポで、本年6月20日に愛媛県松山市を訪ねました。ちょうど接近中の台風4号で梅雨前線が刺激され、雨不足が懸念されていた松山市内には大雨洪水警報が発令されていました（午前11時解除）。松山空港も視界不良とのことで羽田を離陸する際には気をもみましたが、ほぼ予定時刻に無事到着。警報発令下のお忙しい状況の中、松山市消防局総務課主幹の川崎正彦消防司令に松山市消防団の取り組みや「まつやま・だん団プロジェクト」についてご説明いただき、サポート店などをご案内いただきました。

プロジェクト名の「だん団」は、この地方の方言で「有難う」を意味する「だんだん」に、消防団の「団」を掛けたもの。とても温かみ

の感じられるネーミングで、消防団員や市民の皆さんにも浸透しやすいのでは、と感じました。

松山市消防団の取り組み

「だん団プロジェクト」導入に当たっては、数年にわたり積み上げてきた松山市消防団（寺坂末吉団長）の先進的な取り組みの数々が背景にあります。

松山市消防団は平成17年の2市1町の合併により、定員が1400人から2301人へと大幅に増加しましたがその結果150人を超える欠員が生じることとなり、消防団員を確保するため全力を挙げてきました。平成17年の4月には、全国に先駆けて地勢や地域住民の状況に精通した郵政消防団員（ファイヤーポストマンチーム）を機能別消防団員として採用したのを皮切りに、平成18年の4月には、災害発生時の避難所運営活動等に当たる大学生消防団員（大学生防災サポーター）を採用。また同年12月には就業時間中限定の事業所消防団員を採用するなど、さまざまな工夫を凝らしながら団員を確保してきたのです。これらの取り組みは全国の多くの消防団に団員確保のヒントを与えています。そしてこのような機能別消防団員の採用や広報活動が功を奏し、基本団員の入団希望者が増加。短期間に定員枠に不足が生じるまでになりました。平成20年12月には定数を2451人へと増員し、消防団体制の一層の充実強化に励んでいます。

現在の松山市消防団は団員数2359名。1団1本部9方面隊41分団で活動。（平成25年4

「まつやま・だん団プロジェクト」チラシ

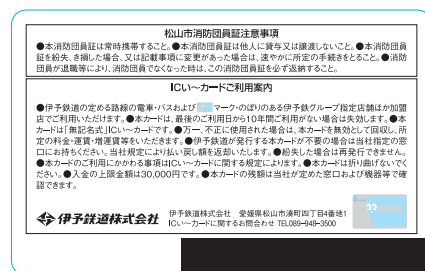
月)平成14年から採用されている女性団員は総勢156名が在籍し、団本部に1つの分団(高橋真由美分団長)として編成し、市内全域を対象としています。平常時には基本的に救命指導や防火・防災指導に当たりますが、災害時には情報連絡、避難誘導、応急救護等の活動ができるよう訓練も積んでいます。女性団員の中には男性団員が仕事で島を離れる日中限定の機能別消防団員である、島しょ部女性消防団員(アイランド・ファイヤー・レディース)も含まれています。

定年制の見直しや、柔軟な定員管理など誰もが入団しやすく、活動しやすい環境整備に努めてきた松山市消防団ですが、昨平成24年4月から新たな取り組みとして「まつやま・だん団プロジェクト」をスタートしました。

まつやま・だん団プロジェクト

上記のようにこれまでも数多くの団員確保対策を実現してきた松山市消防団。平成23年の東日本大震災を受け、また今後も巨大地震の発生が想定されることから、大規模災害時には欠かすことのできない消防団員の着実な確保に向け新たな制度を開始しました。消防団員であることで何らかのメリットを実感してもらうことにより、将来の団員確保にもつなげようというものです。このアイデアは消防団に力を入れる野志克仁松山市長の「消防団員を松山市全体で応援する事業を考えなさい」との言葉からうまれたもので、良いことはどんどん取り入れる市長の姿勢に、事務局も張り切って消防団員応援事業を企画しました。日夜献身的に活動する消防団員はもとより、一番身近な協力者であるご家族をも、社会全体で応援しようという事業です。

具体的には、今回新たに作成したIC機能付きの消防団員証(まつやま・だん団カード)を市内の応援事業所に提示することで、家族などの同伴者も含めて割引等の優遇サービスを受けることができる制度です。各地で消防団応援事業は少しずつ進展していますが、IC機能付きの団員証は全国初の登場です。費用もかかりますが消防団員の士気を上げるため



全国初IC機能付き消防団員証

に踏み切りました。このIC機能は市内の電車・バスなどの公共交通機関等を割引運賃で利用することができ、カードの作成も市内唯一の私鉄交通機関に依頼しました。企業も消防団の支援を目的に安価での作成を引き受けると共に、1000円のデポジットも無料にしていたのだということです。カード表面には団員の顔写真・氏名・発行日・松山市印が入っているととも手の込んだデザインで確かにカッコよく、団員はもとよりご家族にも大好評ということです。特にお子さんが「お父さん(お母さん)すごいなー!」と喜んでくれ本人もとても嬉しく思うという声も寄せられています。中には直接市長に感謝の言葉を伝えた団員もいるそうです。1枚のカードで、団員の心に今まで以上に「消防団員であること」の誇りが高まっているようです。

だん団プロジェクトのお店

現在登録しているお店は91店舗。交通機関、飲食店、居酒屋、美容院、ブティックなど様々です。スタート時点では40店舗でしたが、主に消防局の職員や団員自身が声をかけ開拓してきました。市民への周知は市報などを通じ積極的に行っています。地方紙も取り上げてくれ、今年3月14日付けの愛媛新聞には「お

得です「火消しの証」との見出しで大々的に報じられました。

団員が受けられるサービスは、料金の割引やドリンクサービス、スモールプレゼントなど店舗によって異なり、サービスの内容は松山市消防局のホームページ（松山市→各課一覧→消防局→消防団員募集→消防団員応援事業）で確認することができます。また登録された店舗には「消防団員応援事業所ステッカー」を交付し、店頭やレジ前等の目に付きやすい所に掲示していただきます。このステッカーも「がんばれ 消防団!!」と大きく文字が入りとても見やすいものです。



消防団員応援事業所ステッカー

応援事業所のひとつ、株式会社ジョージチェーンの美容院「アールグランツ」を訪ね、株式会社ジョージの取締役部長・安田裕喜さんにお話を伺いました。安川波勝会長が「2012日本ヘアカラー協会」の委員長も務める株式会社ジョージは、市内に13店舗、県内にも多くの店舗を抱える大手美容室チェーンです。河川清掃や老人ホームでのボランティア活動、また東日本大震災時の募金活動など、もともと社会貢献に熱心な企業です。社長の富永辰夫さんは、東日本大震災での消防団員の活動の報道に、地域での団の存在の重要性に気付き、また団員が減少している課題も知りました。そんな折、友人の消防団員から声を掛けられ、直ちに応援事業所として登録したそうです。今後このような支援を県内ばかりでなく日本中に広めたいとの抱負もお持ちとのこと、大変強力な消防団サポーターと言えます

しょう。

美容院アールグランツは広々と明るいお店で、後藤博樹店長はハンサムな好青年。会社の方針をしっかりと受け止め、一人でも多くの女性消防団員の方をきれいにしたいという思いで、団員のお客様を迎えています。今までは狭い美容師の世界で生き、あまり社会全体に目を向けてはいなかったけれど、今後は業界の垣根を超え多くの人とお付き合いし、消防団を応援していることも知らせていきたいと語ってくれました。技術料金の10%が割引されますが、そのサービスより、団員の存在と活動を認め理解してくれる応対が、何より嬉しいことです。心の満足感が団員一人ひとりの表情も美しく明るくしそうです。「消防団に入ってきれいになろう!」というキャッチフレーズを付けていただきたいくらいです。まだ登録間もないということで、利用する団員数はそれほど多くはありません。お客様の1割は男性ということですから、今後カットやカラーに訪れる男性団員の増加も望めそうです。



美容院アールグランツ

松山市消防団応援自販機

市内には消防団を応援する飲料の自動販売機が10台設置されています。これも応援企業の協力によるもので、ペプシコーラ販売（現サントリービバレッジ）が「だん団プロジェクト」の広報を見て、協力を申し出てくれたそうです。自販機のボディはブルーを主体とした消防団応援のイラストで覆われ、とてもスマートで目を引きます。前面には松山市消防団員・岩崎沙耶さんの笑顔の団員募集ポスターがあしらわれています。サントリービバレッジでは団員証提示により清涼飲料を特別価格で販売してくれるうえ、自販機の売り上げの一部が消防団への寄付にもなっています。今では、他の飲料メーカーからも協力の申し入れがあるとのこと。



松山市消防団応援自販機

今後の課題と見通し

若い学生団員に「だん団プロジェクト」の感想を求めたところ、「登録店舗には居酒屋系

のお店が多く、夜の営業が中心なので、今後は若者が昼に楽しめる飲食店の参加も増えたい」とのことでした。多くの方が利用するコンビニに現在アプローチしているところですがシステム上難しい所もあるようです。当面は協力店舗数の増加に力を注いでいく予定です。

松山市内には道後温泉という全国的に名高い名所があります。現在老舗旅館の1軒が応援を検討してくれていますが、道後温泉のホテルや旅館を使うのは圧倒的に市外の人が多いため課題が多くあります。このような課題解決のためにも、この応援事業を松山市から愛媛県全体に広げることが大きな目標です。実際人口の差など克服すべき課題は多いのが実情です。けれど愛媛県消防協会でも前向きに進めようとの動きがあると聞きました。

松山市消防局総務課の川崎正彦主幹は、今後も消防団に関する新たな試みをスタートさせる予定であることを語ってくれました。消防団は、知識・技術の宝庫であり、地域の安全に向け消防団の活動は無限にあると言います。地域ぐるみで真剣に取り組まないと今後も団員の増加は望めないし、活動を続けてもらえないと考えておられます。

「まつやま だん団プロジェクト」は地域全体で消防団を応援する制度です。「こんなにたくさんの方があなたの団員としての活動を応援していますよ」と団員自身に知らせ、家族も含めて誇りを高められる制度です。さらに、まちのあちらこちらに応援店舗等が増えることで市民全体に消防団の存在を知らしめ、同時にその重要性を理解してもらえる仕組みです。ひらめきを即実行する行動力、さまざまな事業への愛情溢れるネーミング…松山が好き、消防団活動が大好きな人々の多いまちだとの印象を受けました。昨年8月で自主防の組織率100%、防災士の数日本一と、住民の防災意識も旺盛な松山市。今後の松山市消防団の動きから目が離せません。

ご協力有難うございました。

危険物施設等における事故防止について

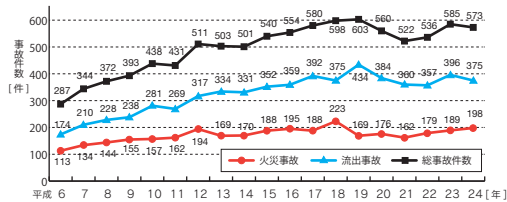
総務省 消防庁 危険物保安室

○平成24年中の危険物施設における事故件数

平成24年中の危険物施設における事故件数（火災及び流出事故の合計件数）は、前年より12件少ない573件でした。

なお、この件数は、平成元年以降、事故が最も少なかった平成6年と比較すると、約2倍に達しており、事故防止対策の一層の推進が必要です。

危険物施設における火災及び流出事故発生件数の推移



※事故発生件数の年別の傾向を把握するために、震度6弱以上（平成8年9月以前は震度6以上）の地震により発生した件数を除いています。

また、平成24年中には、以下のような大規模な危険物に係る事故が発生しました。

- ① レゾルシンプラント内の反応器について緊急停止措置の切替えを行った際に、当該反応器内の攪拌が停止し、上部の温度が上昇、内圧が高まり破裂し、爆発火災に至ったものと推定される事故（死者1名、負傷者21名）
- ② アクリル酸製造施設において、タンクに一時貯蔵されていたアクリル酸が重合反応を開始し、当該タンクの内圧が高まり破裂し、飛散することで火災に至ったものと推定される事故（死者1名、負傷者36名）

○平成25年度危険物事故防止アクションプラン

消防庁では、事故防止対策の取組の一環として、危険物関係業界団体、消防関係行政機関等で構成された「危険物等事故防止対策情報連絡会」を開催し、「平成25年度危険物事故防止アクションプラン」を以下のとおり取りまとめました。当該アクションプランに基づき、官民一体となった事故防止対策の自主的、積極的な推進をお願いします。

<危険物事故防止に関する重点項目>

危険物施設における事故の件数を減少させるためには、「業種を超えた事故の情報の共有」を図り、同様の事故をできるだけ減らしていくことが重要です。

近年の危険物に係る事故や東日本大震災の状況に鑑み、次の事項を重点として事故防止対策を講ずる必要があります。

1. 地震・津波対策の推進

東日本大震災の教訓を踏まえ、地震想定や津波想定の見直しが行われているが、このような状況を踏まえ

たハード面及びソフト面双方における地震・津波対策の再検証を行うとともに、訓練を通じた習熟度の向上を図ること。

特に、地震や津波により想定される被害を具体的にイメージした上で、従業者等に対する地震・津波情報の確実な伝達、個々の従業者が行うべき応急対策の再確認、津波のおそれがある場合の避難方法については明確にしておくこと。

2. 経年劣化による流出事故防止対策の推進

経年劣化によるタンク、配管等からの流出事故を防止するために、日常点検、定期点検等の際に、計装類の指示値の異常、異音・異臭等の有無、錆垂れの有無等を見逃さない体制を確立するとともに、必要に応じて点検方法を見直し、不具合の発生が疑われる部位は速やかに補修、取替え等の対策を講ずること。

3. 保安教育の充実

知識不足、慣れから生じる配慮不足等による事故を防止するため、現場の整理・整頓・清掃や作業員間のコミュニケーション能力の向上といった基本事項を徹底する教育を実施し、効果測定の実施を推進すること。

特に、同種事業所において発生した事故事例は、軽微なものも含めて同種の事故の発生を防ぐ上で参考になることが多いことから、保安教育を行う際に積極的に活用するとともに、可能な限り業種を超えた事故情報の活用にも努めること。

4. 異常発生時における応急対応能力の向上

電力の途絶、工程の一部機能の喪失、原材料の全部又は一部の供給停止、冷却機能の停止等の異常が発生した場合に備えて、ハード面で講じられる安全対策を再整理しておくとともに、作業員が監視すべき項目や操作すべき項目を予め決めておくこと。

この際に、作業員に対してハード面で講じられる安全対策の概要及びその場合に想定される状況について教育するとともに、監視項目、操作項目の目的及び効果について教育すること。

また、これらの異常が発生した際の事故の発生リスク、万一事故が発生した場合に想定される事故の態様等を早期に把握して、関係機関への通報、関係者への連絡等を滞りなく行うことができるよう、従業者が連携して速やかに対応することのできる体制を構築しておくこと。

問い合わせ先

消防庁危険物保安室 鈴木（健）、黒木
TEL：03-5253-7524

外出先での地震への対処

総務省 消防庁 防災課

地震が発生したとき、身の安全を確保するには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をとることが極めて重要です。そのためには、日頃から皆さんが地震について関心を持ち、地震の際の正しい心構えを身につけておくことが大切です。

今回は、特に外出先での地震への対処について取り上げてみます。

1. 住宅地

強い揺れに襲われたら、住宅地の路上では落下物や倒壊物に注意しましょう。

- ・住宅地の路地にあるブロック塀や石塀は、強い揺れで倒れる危険があります。揺れを感じたら塀から離れましょう。
- ・電柱や自動販売機も倒れてくることがありますので、そばから離れましょう。
- ・屋根瓦や二階建て以上の住宅のベランダに置かれているエアコンの室外機、ガーデニング用のプランターなどが落下してくることがあります。頭上からの落下物に注意しましょう。

2. オフィス街・繁華街

中高層ビルが建ち並ぶオフィス街や繁華街では、窓ガラスや外壁、看板などが落下してくる危険性があります。

- ・オフィスビルの窓ガラスが割れて落下すると、広範囲に拡散します。ビルの外壁や貼られているタイル、外壁に取り付けられている看板などが剥がれ落ちることもあります。鞆などで頭を保護し、できるだけ建物から離れましょう。
- ・繁華街では、店の看板やネオンサインなどの落下・転倒の危険が特に高くなるため、強い揺れに襲われた際には十分注意しましょう。



3. 海岸・川べり

海岸や川べりで強い揺れに襲われたら、一番恐ろしいのは津波です。避難の指示や勧告を待つことなく、直ちに避難しましょう。

- ・強い地震を感じたとき、または弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海岸や川べりから離れ、急いで高台や津波避難場所、津波避難ビルなどの安全な場所へ避難しましょう。
- ・ラジオなどを持っている場合は、津波情報を聞きましょう。
- ・津波は繰り返します。第1波が小さくても後から来る波の方が高い場合があるので、いったん波が引いても絶対に戻ってはいけません。

4. 山・丘陵地

落石に注意し、急傾斜地など危険な場所から遠ざかりましょう。

- ・山ぎわや急傾斜地では、山崩れ、がけ崩れが起こりやすいので、早めに避難しましょう。また、市町村の避難指示等があれば、直ちに避難しましょう。



5. 自動車の運転中

急ブレーキを踏めば予想外の事故を引き起こすことにつながります。

- ・道路の左側か空地に停車し、エンジンを止めましょう。
- ・カーラジオ等を活用して、正確な災害情報を入手するように努めましょう。
- ・警察官が交通規制を行っているときは、その指示に従いましょう。
- ・避難するときは、車のキーはつけたままにし、ドアをロックしないで、徒歩で避難しましょう。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部 防災課震災対策係 日野、辰巳
TEL : 03-5253-7525

9月1日は防災の日

防災訓練に参加しましょう

～災害に備え、防災知識の向上をめざす～

総務省 消防庁 応急対策室

わが国では、毎年のように地震、台風、大雨などの自然災害が発生し、各地で多くの被害が出ています。なかでも、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、平成25年3月11日現在で死者・行方不明者が2万1千人を超えました。

また、首都直下地震や南海トラフの巨大地震といった大規模地震の切迫性も指摘されています。

さらに、最近では竜巻や局地的大雨による被害が多発しています。

このような状況の下、被害を最小限に抑えるためには、国民一人ひとりが災害に対する正しい知識を身につけ、いざというときに落ち着いて的確な行動をとることが重要であり、そのためにも、各地方公共団体、企業、地域コミュニティなどで行われる防災訓練に積極的に参加することが望まれます。

防災訓練では、情報の収集伝達、避難・誘導、初期消火、応急救護、地震体験など実践的な対応を経験す

ることにより、一人ひとりが災害発生時の対応策を身につけることができます。また、いつ起きるかわからない地震・津波災害などに対する備えは、常日ごろから防災意識を持って生活することや防災訓練の体験などによって培われるものといえます。

国や地方公共団体では、毎年9月1日の「防災の日」及び8月30日から9月5日までの「防災週間」を中心に防災訓練を行いますので、積極的に参加し、いざという時に対応できる力を身につけましょう。

*防災訓練の日程は地域によって異なりますので、詳細はお住まいの地方公共団体にお問い合わせください。

地域で行われる防災訓練へは、自分の住んでいる地域の方々と共に“いざという時どうする”という心構えで参加し、家族みんなで防災について話し合ひましょう。

いざというときの備え確認チェック

- 非常持ち出し品の準備、避難場所までの順路など、避難するときの確認事項**
 - ・次の物はすぐに持ち出せるように用意しましょう。
現金、救急箱、懐中電灯、ライター、電池、毛布、食品、飲料水、ラジオなど
- 消火器の正しい使い方などの習得、冷静に火災を防ぐこと**
 - ・消火器は初期消火に有効なので正しい使い方を覚えましょう。
- 正しい情報の入手方法と家族や近隣の人の安否情報を確認する方法**
 - ・携帯電話、インターネット、ラジオ、防災行政無線などで正しい情報を入手しましょう。
 - ・毎月1日・15日や防災週間などで災害伝言ダイヤル（171）が体験利用できるので、使い方を確認して、いざというときに大切な人の安否情報が確認できるようにしましょう。
- 軽いけがの処置など、協力して行う応急救護の方法**
 - ・消防署などで行う救命講習会では、軽いけがの処置をはじめ心肺蘇生法について習得できますので、進んで参加しましょう。
- 地域住民等で協力して行う救出活動の方法**
 - ・大規模な災害時には消防車や救急車が直ぐに救出に向かえない場合もあるため、身近にあるノコギリ、自動車のジャッキ、パールなどを使用し、建物の倒壊や落下物などの下敷きになった人を地域のみんなが協力し合って救出できるようにしましょう。
- 避難前の安全確認**
 - ・停電から復旧した時の通電火災を防ぐため、電気のブレーカーを切りましょう。
 - ・ガス漏れによる火災を防ぐため、ガスの元栓を閉めましょう。
- 家具等の転倒防止など、自分たちで事前に備えとしてできることの確認**
 - ・自分の身は自分で守る、自分たちのまちは自分たちで守る、という意識を持って生活しましょう。

総務省消防庁 生活密着情報

「地震などの災害に備えて～地震に自信を～」をぜひ参考にしてください。

<http://www.fdma.go.jp/html/life/jisin2jisin.html>

問合わせ先

消防庁応急対策室 応急対策第2係 和田、山本、門屋

TEL：03-5253-7527

第61回全国消防技術者会議の開催について (ご案内)

総務省 消防庁 消防研究センター

消防研究センターでは、全国の消防の技術者が消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表するとともに、参加する他の発表者や聴講者と討論を行う「全国消防技術者会議」を毎年開催しています。61回目となる今年の会議は、下記のとおり開催します。皆様のご来聴をお待ちしております。

記

- 開催日
第1日 平成25年10月24日（木）
第2日 平成25年10月25日（金）
- 場所
ニッショーホール（日本消防会館）
東京都港区虎ノ門2-9-16
- 参加費
無料
- プログラム
消防研究センターのホームページ（<http://nrifd.fdma.go.jp/>）をご覧ください（「イベント情報」の欄の「【技術】第61回全国消防技術者会議」のリンクをクリック）。逐次詳細なものに更新します。
- 聴講申し込み方法
聴講を希望される方は、次のサイトにアクセスし、必要事項を入力して聴講の申し込みをしてください。申し込みを取り消す場合、申し込み内容を変更する場合にも、このサイトをご利用ください。
<URL> https://ez-entry.jp/61_gijutsusha/entry/
なお、上記の方法により申し込むことが難しい場合は、下記問合せ先にお問合せください。
- 聴講申し込み〆切り
10月21日（月）
- その他
第1日の11:30から「平成25年度消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する表彰」の表彰式を開催する予定です。
- 問い合わせ先
消防庁消防研究センター 研究企画室
〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4-35-3
TEL 0422-44-8331 FAX 0422-44-8440
E-mail : 61_gijutsusha@fri.go.jp

消防個人年金 平成26年1月加入申込み受付中 !!

(財)日本消防協会 年金共済部

「消防個人年金」は、「消防互助年金」制度を引継ぎ、更に皆様からのご要望の多かった払込方法などを追加拡充して、平成25年7月1日からスタートした制度です。

○制度改正以降、皆様からの反響の大きい点についてご紹介します。

1つ目は予定利率が1.25%であることです。

現在の金融機関での預金利率は、普通預金で0.02%、300万円以上の10年スーパー定期ですら約0.2%といった低金利の中で、消防個人年金では平成15年以降予定利率1.25%を維持しており、更に前年度の運用実績から配当率も加算させて頂いております。

【過去3年間の実績】

	予定利率	配当率	実質利率
平成22年度	1.25%	0.03%	1.28%
平成23年度	1.25%	0.05%	1.30%
平成24年度	1.25%	0.17%	1.42%

過去3年間は、この内容にて積み立てられており、大きな魅力の1つと考えております。

2つ目は、一時払が可能になったことです。

今回の改正で月払、半年払、月払と半年払の併用のいずれかにご加入頂いている加入者様の特権として、10万円から1千万円までの範囲でまとまった資金を随時(年2回)積み立てることができるようになりました。お子様の教育などに手がかからなくなった、退職金などまとまったお金が入ったなどの方々から大変喜ばれております。

この他、たくさん加入者様からお声を頂いております。今後ご紹介して行きたいと考えております。

○加入スケジュールについて

消防個人年金では年2回、1月1日と7月1日の加入日をご用意しております。

次の加入日は、平成26年1月1日となっております、加入申込み締め切りは、平成25年10月31日までとなっております。ご要望を頂ければパンフレットと加入申込書をお送り致しますので、当協会までご連絡をお願い致します。

また、詳しくは当協会フリーダイヤル若しくはホームページをご利用ください。

○お問い合わせ先

(財)日本消防協会 年金共済部

電話 0120-658-494 (フリーダイヤル)

03-3503-3079

FAX 03-3503-1480

「夏休み魚つかみ会」で熱中症予防をPR！

神田消防署 防火管理係 本多 まり子

神田消防団第3分団では、7月20日区内小学校の校庭で行われた「魚つかみ会」で、熱中症予防、消防少年団員の募集や消防団の活動のPRを実施しました。

夏休みに入った小学生、園児、保護者など約80名が参加し、ブルーシートで作成した臨時プールにドジョウを放ち、消防団の放水で泳ぐドジョウを掴むという涼しくて暑い大会です。

消防団員から、子供たちに水の事故防止、熱中症予防対策、消防少年団員の募集などのお話もあり、子供たちは地域に根ざす消防団の活動を肌を感じながら、歓声を上げて楽しみました。

第3分団長は、「今後も地域に密着した消防団活動で、地域みなさんに理解と協力を求めていきたい」と語りました。



目黒消防団念願の定員500人達成

目黒消防署 防災安全係 山下 和彦

平成25年7月1日（月）、目黒消防団に新たに入団した東京医療保健大学1年生55人に対し、辞令交付式が実施されました。目黒消防団では、昭和22年の発足から定員500人の達成に向け様々な取組みを行い、その一環として東京医療保健大学への入団促進を働きかけ、総団員数538人とすることができました。

消防団としては医療を専門に学ぶ若い力は大変魅力的であり、学生にとっても、消防団員としての経験は医療従事者として必ず役立ち、また、地域貢献もできるという両者の目的が一致したことから実現に至りました。

辞令交付に続き、新入団員への期待を込めた橋本消防団長の訓示に対し、代表団員による頼もしい決意表明が述べられ、青木目黒区長、大学関係者からも目黒区の安心安全のため頑張ってくださいとの祝辞をいただきました。

今後も目黒消防団と目黒消防署は一致団結して目黒区の安全を守るために全力を尽くします。





消防団120年特別企画 「大日本消防」表紙絵

(財)日本消防協会



発行：昭和3年9月
第2巻第9號
題名：「桔梗」
筆者：小室翠雲
(こむろすいうん)

明治7年8月31日生まれ
文展審査員・帝展審査員
代表作に「寒林幽居」「春雨蕭々」など



発行：昭和3年10月
第2巻第10號
題名：「久米舞」
筆者：吉川靈華
(きっかわれいか)

明治8年5月4日生まれ
京都方広寺の天井画『龍』の作者
代表作に「離騷」「赫耶姫^{かぐやひめ}」など



発行：昭和3年11月
第2巻第11號

題名：「菊」

筆者：藤島武二
(ふじしまたけじ)

慶応3年9月18日生まれ
昭和12年文化勲章受章
代表作に「黒扇」「芳蕙」など



発行：昭和3年12月
第2巻第12號

題名：「椿」

筆者：安田靱彦
(やすだゆきひこ)

明治17年2月16日生まれ
法隆寺金堂壁画模写、同再現模写を監修
代表作に「風神雷神」「飛鳥の春の額田王」
など

頑張れ! 少年消防 クラブ

No.62 坂戸地区少年消防クラブ（埼玉県）

「消防署体験入署で活動力アップ」

坂戸地区少年消防クラブ 幹事長 鈴木 英雄

坂戸地区少年消防クラブが活動している坂戸市は、埼玉県のほぼ中央部に位置し、古くから交通の要衝であり、東京都心から45km圏内という利便性もあって産業の発展と都市化が進むと同時に、街の中心部を高麗川と越辺川の二つの河川が流れる豊かな自然環境が残る街でもあります。

少子化の影響もあって、現在のクラブ員は16名と少ない人数ですが、消防出初め式や防災訓練への参加、救急講習や視察研修

など、年間を通して地域や家庭において防火防災意識を高めてゆくことを主眼とした活動を継続しています。

その中で、6月16日（日）に消防署体験入署を実施しました。内容は、119番通報、AEDを用いた心肺蘇生法、止血法、三角巾や日用品を用いた患部の固定方法、煙中通過体験、屋内消火栓の使用方法など実践的なものを選び、知識と技術を習得することによって、身近に起こる各種災害に対して迅速に対応できる能力を養うことを目的としています。

この体験を通してクラブ員として活動力をアップさせ、防火・防災面で地域社会に積極的に貢献して貰いたいと思います。



頑張れ! 少年消防 クラブ

No.63 大沢少年消防クラブ（岩手県）

自主防災活動から郷土愛へ

大沢少年消防クラブ 幹事長 十文字 武徳

「海と高原の^{まきば}牧場、人々がふれあい、心豊かに、いきいきと躍動するまち」洋野町は、岩手県の最北端に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな町です。大沢少年消防クラブは、町のシンボルである標高706mの久慈平岳の麓にある大沢地区の小学生で構成され、現在は5名のクラブ員で活動しています。

昭和62年8月に結成以来、約25年間の永きにわたり、地元の消防団や婦人消防協力隊とともに、一般家庭の火災予防査察（消火器や住宅用火災警報器の設置状況の確認など）の実施、消防演習の防火パレードのほか、町や地域の夏まつりでは、みこしパレードに参加するなど、地域の火災予防や啓発活動を続けております。その成果として、結成した昭和62年以降、当クラブ管内において、住家火災は発生していません。

結成25周年の節目に、「少年少女消防クラブフレンドシップ2013」において、「特

に優良な少年消防クラブ」として表彰されたことは、これまでの活動が認められた証であり、今後の活動への励みとなりました。

「自分たちの地域は、自分たちで守る」という、自主防災の精神を小学生から体験することにより、家庭内の防火思想の高揚が図られるだけでなく、地域の連帯感と愛郷心の醸成へとつながります。

少子化の影響により、結成当時21名であったクラブ員数は減少しておりますが、クラブを卒業した中高生は指導員として活躍し、その後は消防団員として地域の防火、防災活動に関わっており、結成時の目的と伝統が引き継がれております。

この度の栄えある受賞を最大の名誉と誇りとして、地域の無火災を継続するとともに、郷土愛護の精神を忘れず、更なる向上心をもって活動していく決意を新たにしております。



頑張れ! 少年消防 クラブ

No.64 小美玉市立堅倉小学校少年消防クラブ（茨城県）

「安全安心なまちづくりに向けて」

小美玉市立堅倉小学校少年消防クラブ

堅倉小学校少年消防クラブが活動している小美玉市は、茨城県のほぼ中央にあり南には霞ヶ浦を有し、西に筑波山を見通せる自然豊かな場所に位置しています。

小美玉市は人口53,000人程で市内には航空自衛隊百里基地や茨城空港があります。

少年消防クラブは市内小学校に5クラブあり、私たち堅倉小学校少年消防クラブは昭和59年4月に結成され、毎年5、6年生が自主的に入団し活動を行っています。（平成24年度 25名）

主な活動は、消防本部の方と一緒に全国火災予防運動や救急医療週間時に街頭へ出て市民の皆さんへの広報活動などです。

特に火災が多くなる春先3月の火災予防運動期間中は、消防署・消防団・婦人防火クラブの方

ちと市内を消防車などで一巡しながら火災の予防警戒を呼びかける防火パレードに参加しています。

さらに、昨年8月には5つの小学校のクラブ員を含む6年生全員を集め消防署一日体験入署が行われました。これまでは各小学校別々に行ってきましましたが、今回は一堂に会し200名以上が参加しました。

消防署の方から説明を受けた後、地震体験車を使った体験や煙を充満させたテントの中を通り抜ける体験、消火器や消防のホースを使った消火訓練、更にロープを渡る訓練やロープの結び方などさまざまな体験をさせていただきました。

特に大雨の中を歩く体験では、膝程の水の中思うように進めずシャワーの水により前も見えなくなり、煙だけではなく雨の怖さも改めて知ることができました。

この一日体験入署で、今後の活動や生活の中で自分や家族の身を守ることへの知識を得ることが出来大変有意義な一日でした。

平成25年3月26日にはフレンドシップ2013において「特に優良な少年消防クラブ」を受賞することができ、今後の活動への励みとなりました。

これからもこのクラブの大切さを後輩たちに引き継ぎ、私たちの小さい手からより過ごしやすい小美玉市にしていくよう活動を続けていきたいと思います。



『平成25年度消防育英会奨学生懇談会』 を開催しました

公益財団法人 消防育英会

7月25日、26日の2日間にわたり、北海道・東北・関東及び中部地区の小学校1年生から高校3年生までの奨学生16名、保護者13名、道県の消防育英会担当者と事務局が参加して『平成25年度消防育英会奨学生懇談会』を開催しました。

1日目は、日本消防会館に集合し、会館の屋上にある全国消防殉職者慰霊碑に参拝しました。

その後、バスで、渋谷の「NHKスタジオパーク」へ向かいました。「NHKスタジオパーク」では、放送の収録セットの見学や体験コーナーを親子一緒に挑戦しました。

次に、宿泊ホテルの会場で元フジテレビアナウンサーの松田朋恵先生をお招きし、心の健康について講演をいただきました。

午後6時からは、同会場で奨学生懇談会を行いました。

原理事長のあいさつに始まり、子どもたち・保護者の方々といろいろ情報交換し、



全国消防殉職者慰霊碑に参拝

途中、事務局によるミニコントやビンゴゲームなどを行い、楽しく和やかな雰囲気のもとに終了しました。

2日目の「東京ディズニーシー」での課外研修では、夏休みということもあり、たくさんの人出でしたが、開門と同時に、各アトラクションに駆け足で向かい、楽しんでいただきました。

きっと、夏休みの良い思い出になったことでしょう。



NHK放送センターにおいて





松田朋恵先生による健康セミナー



原理事長あいさつ



懇談会の様子



ディズニーシーにおいて

KEIRIN



競輪補助事業完了のお知らせ

この度、平成24年度競輪の補助金を受けて下記の事業を完了いたしました。

記

1 事業名	平成24年度 犯罪被害者に対する支援活動 補助事業
1 事業内容	消防団員、消防職員等の殉職者遺児に対する奨学金の支給
1 補助金額	16,221,000円
1 完了年月日	平成25年3月1日

公益財団法人 消防育英会

第21回 全国女性消防操法大会 記念Tシャツ

1,500円 (税込み)

- カラー：ネイビー / オレンジ
- サイズ：S / M / L / LL
- 素材：150g/mメッシュ ポリエステル100%

第21回全国女性消防操法大会が横浜で開催されることを記念して、大会記念Tシャツを作成いたしました。

今回しか手に入らない限定品となっておりますので、是非記念としてお買い求めください。

尚、数量限定ですので品切れの際はご了承ください。

詳しくは、(財)日本消防協会のホームページ

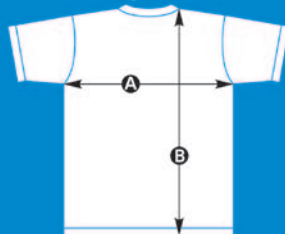
<http://www.nissho.or.jp> をご覧ください。

速乾性に優れた ドライTシャツ

吸汗性に優れたメッシュを使用。綿にくらべて速乾性が高く、汗をかいてもドライにキープ。アクティブシーンやデイリーシーンでも快適な着心地が得られます。

サイズ	A 身幅	B 肩丈
S	47.0	65.0
M	50.0	68.0
L	53.0	71.0
LL	56.0	74.0

*Tシャツは男女兼用のサイズです。



FRONT



FRONT



消防 その愛と力

消防団120年

自治体消防65周年



消防団120年・ 自治体消防65周年記念大会

平成25年11月25日(月) 東京ドーム

主催 日本消防協会 全国消防長会



消防団応援歌「消防団 365歩のマーチ」

作詞者 宮城県栗原市 後藤 聡
めぐみ

父ちゃんは 消防団員 地域を守るヒーローさ
地震 雷 火事 台風も 冷静沈着 出動だ
人生は ワンツータッチ いつでもどこでもささえ愛
あなたの流す その汗に
感謝の言葉を ありがとう
力合わせ 心合わせ
ワン・ツー ワン・ツー
ささえ合い 進め
ソレ ワン・ツー・ワン・ツー
ワン・ツー・ワン・ツー

母ちゃんも 消防団員 地域に咲かす笑顔花
愛嬌いっぱい 応急手当 防火指導も万全だ
人生は ワンツータッチ 家族も近所もたすけ愛
もしもの時の 助け船
日ごろの愛の 積み重ね
力合わせ 心合わせ
ワン・ツー ワン・ツー
たすけ合い 進め
ソレ ワン・ツー・ワン・ツー
ワン・ツー・ワン・ツー

ヨシ僕も 消防団員 将来なってみせるんだ
みんなのために 見回りながら 小さなことから防ぐんだ
人生は ワンツータッチ 親子のふれあいきづき愛
一度の人生 だからこそ
大きな絆を 築きましょう
力合わせ 心合わせ
ワン・ツー ワン・ツー
きづき合い 進め
ソレ ワン・ツー・ワン・ツー
ワン・ツー・ワン・ツー

うちの

名物団員



山形県



尾花沢市消防団 第3分団 分団長

後藤 一彦

尾花沢市の基幹産業は農業です。水稲やスイカをはじめ、食物自給力の高い土地柄を活かして全国に農産物等を出荷しています。盛夏のころ出荷される甘くて大きい尾花沢スイカ。夏スイカとしては、日本一。当市特有の昼夜の寒暖差により、甘味がつけられます。シャキッとした歯ざわりと、口の中いっぱい広がるみずみずしい甘さは夏の風物詩として親しまれ、名実ともに尾花沢の代表的な作物です。スイカ農家の後藤さんは、昭和58年入団し、平成20年に分団長を拝命、第3分団150名のリーダーとして団員を統率しています。トラックの助手席にはいつも法被とヘルメットを用意し、有事の際はスイカを積載した状態でも現場に駆けつける、熱い消防魂を持った分団長です。

千葉県



富津市消防団 副本部長 5分団1部班長

森田 和博 (左) 安田 敦 (右)

富津市は、人口47,000人、消防団員数は510名、房総丘陵と東京湾に挟まれた千葉県中南部に位置します。今回紹介する団員は、富津市の営農集団「百姓王」に所属する2人で富津市の抱える高齢化による耕作放棄地や、地元離れの進む過疎化などの問題に対し地域を活性化するために、グループで農作業受託、農地の利用集積、耕作放棄地の再生を目指し活動しています。今回は、地元君津商業高校の生徒たちに収穫の楽しさを体験させる目的でトモモロコシの収穫体験を行いました。そんな彼らは、やはり消防団員としても全力で災害に挑みます。「俺たちの町は俺たちで守る」を合言葉に訓練、災害に日々活躍しています。

岐阜県



山県市消防団 第3分団 団員

山田 博康

山田博康さんは、家族で養鶏場を営む傍ら、山県市消防団として日夜地域の安全安心の為に貢献されています。山田さんが作るこだわりたまごは、高い栄養価と濃厚な卵黄が特徴で、たまごかけご飯に最高！と地元はもちろんのこと、遠方の方にも大好評です。今や山県市といえば「こだわりたまご」と言われるほどになり、山県市消防団員の元気の源となっています。



美濃加茂市消防団 第1分団 団員

マクス・ジェームス

フィリピン南部のミンダナオ島生まれのマクス・ジェームスさん。入団の理由を「日本で仕事に従事でき、家族と幸せに定住させていただいている感謝の気持ちを表すため」と話す31歳の若手団員です。近隣の自動車工場働き、美濃加茂市内にマイホームも購入。消防団活動のほか、地域の清掃活動などにも積極的に参加しています。戸別訪問で自宅を訪れた団員の勧誘をきっかけに、昨年4月、消防団に入団しました。フィリピンには消防団が無く、入団には不安もあったようですが、「大好きなこの地域と家族の安全のため」と笑顔で話してくれます。



吉備中央町消防団 副団長

宮崎 忠

が、実は誰に対しても気配り、目配りの豊かな優しい人柄で皆から慕われています。

本業は、仕出し鮮魚店（宮崎商会）の代表取締役ですが、農業（水稲）も大規模に経営されています。プライベートでは、2歳のお孫さんの優しいおじいちゃんでもあります。

宮崎副団長は、昭和52年に入団以来、団歴36年の大ベテランです。町村合併の際にも団の取りまとめに尽力し、永年の功績が認められ、平成23年の秋の叙勲にて藍綬褒章を拝受いたしました。丸刈りと髭がトレードマークのやや恐ろしげな風貌です



本宮市消防団 分団長

遠藤 隆

平成5年4月に入団された遠藤さんは、入団当初より災害現場へ誰よりも早く駆けつける団員です。

仕事は両親と自動車整備業を営んでおり、自ら「代表戸締り役」と言うほど、早朝から夜遅くまで忙しい毎日を過ごしています。

趣味は野球で、息子さんが所属している中学校野球部の指導者、そして自らも草野球チームで活躍しています。

仕事と趣味、家族と消防団と、様々なことに打ち込んでいる遠藤さんは、団の中心人物として絶大な信頼を得ています。



佐久市消防団 ラッパ長

小林 武二

ラッパ長の小林武二さんは、高校時代から三十数年間さめることない、バイクに対する熱い情熱を持ち続けるナイスガイ。村おこしで始めた和太鼓が趣味になり、宮太鼓の名手として【信州望月太鼓】の主軸となって活躍しています。今では、年間20回を超える出演依頼があり、地域活性化に大きく貢献しています。

今年度の消防ラッパ吹奏大会では、地区大会を勝ち抜いて2年連続の優勝に導き、6月に行われた、佐久市消防団ラッパ吹奏大会の個人戦では、出場した27名のラッパ隊員一人ひとりに魂のこもった指揮をし、隊員はもとより、観客に感動を与えてくれたのがとても印象的でした。

仕事や消防団活動だけではなく、趣味の領域においても面倒見がよく、皆に慕われ、人望も厚い分団長です。



敦賀美方消防組合敦賀消防団 第9分団第2部 団員

中野 強

平成18年4月に入団された中野さんは、災害現場はもとより訓練教養に積極的に参加され、同年9月に結成した敦賀消防団消防隊「つるが鷺」では、はしご乗り手としても活躍する一方、ホームページや自身のブログで消防団活動の様子を紹介するなど広報活動にも積極的で、敦賀消防団の活性化を担う中心的な存在として活躍されています。

中野さんは、消防団以外にも、地域の安全を守る「防災士」の資格取得を始め、子供達の登校を指導する「みまもり隊」やPTA役員など多くのボランティア活動にも従事されています。

消防団の広場

岐阜県

「班長としての重み」

多治見市消防団
中央南分団 班長

大橋 宏



昨年4月、私は入団6年目で班長になりました。未熟な自分が班長としてうまくやれるのか不安でした。しかし班長となってひと月、市の競練会に出場することになりました。種目は訓練礼式各個訓練(停止間、行進間)で、自分の番手は指揮者でメンバー3人が新人。行進間も指揮者も未経験、指揮者と行進間の両方の訓練を行いながらも

新人に劣ることは班長としてあってはならないと懸命に励みました。注意されたことは確実に次の訓練までに直すことをモットーとしました。大会では、残念ながら優勝は逃しましたが団員からの信頼と自信を得ることができたと感じました。

そして今、岐阜県消防操法大会の要員に選ばれ、訓練の日々です。市と県の大会を通じて、少しは班長というものになれたかなと感じています。ステップアップの機会をくれた団長および団の活動に感謝しています。



平成25年度 全国統一防火標語

「消すまでは 心の警報 ONのまま」

9月の日本消防協会関係行事

9月5日(木)～6日(金)	第21回全国女性消防操法大会第1回審査員研修会
9月11日(水)	全国消防殉職者遺族会理事会
9月12日(木)(午前)	第32回全国消防殉職者慰霊祭
9月12日(木)(午後)	日本消防協会役員会議(正副会長会議、理事会)
9月中旬	消防育英会理事会
9月下旬	消防団120年・自治体消防65周年記念大会実行委員会・常任委員会

編集後記

このところ気象に関しては何かと記録的と称される事柄が多く、私たちにとっては望ましくない記録更新ばかりとなっています。そして「西暑東冷」「極端気象」「大陸の亜熱帯化」「局所的豪雨と異常少雨」「これまでに経験したことのない大雨」など気象に関する新しい言葉も生まれています。

日本を含め世界各地で気象の異変が起き、地震災害だけではなく、異常気象が引き起こす災害もとても心配な状況となっています。今月号に被害状況写真を掲載させていただきました山口県や山形県、また島根県や秋田県でも豪雨により甚大な被害を受けられた地域がある一方で、鹿児島県内の5つの地域では、7月に雨が全く降らなかったことによる干ばつなど降水量の格差が報じられました。

これからは台風シーズンとなりますし、局所的豪雨は気象条件次第では、どこでも起こりうる可能性があります。毎日の天気予報をチェックすると共に、平常時から対処法や避難場所をハザードマップ等でもう一度確認し、早めの避難と危険な場所には絶対に近づかないことを心がけましょう。

この度の各地での豪雨災害でお亡くなりになられた方々、被災された方々に対しまして、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。(M・K)

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六巻第八号
平成二十五年八月五日印刷
平成二十五年八月十日発行

編集人 生嶋 文昭
発行所 財団法人日本消防協会

印刷所 東京都港区虎ノ門二丁目九十一番六
電話 〇三(3503)一四八一(代)

印刷所 東京都文京区湯島三丁目二十一番十二
日本印刷株式会社
電話(3833)六九七一(代)

生活協同組合 全日本消防人共済会

「火災共済金は1500倍補償」

B型火災共済

加入口数5口500円から25口2,500円まで
掛金25口2,500円で最高375万円の共済金

C型火災共済

加入口数最高200口20,000円まで
最高限度額掛金200口20,000円で最高3,000万の共済金
※共済への加入にあたり、組合員となっていただくための出資金が別途必要となります。



共済金のお支払い対象 B型・C型共通

火災共済金：火災、落雷、爆破・破裂

風水雪害等共済金：風災、水災、雪災、車両飛び込み、航空機墜落

所在地 東京都港区虎ノ門2-9-16

日本消防会館6階

連絡先 TEL 03-3503-1439

FAX 03-3503-1480

E-Mail: kyousaikai@nissho.or.jp

URL: <http://www.nissho.or.jp>

消防個人年金

消防個人年金は、将来の自分の為の積立年金制度で、(財)日本消防協会が第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。

消防個人年金を紹介します

- 1 予定利率は**1.25%**です。
- 2 **月払、半年払、月払と半年払の併用**から払い込み方法をご選択頂き、**掛金1万円**(ゆうちょ銀行は5千円)からご加入頂けます。また、まとまった資金を**一時払**することもできます。
- 3 年金は、**年4回**で受給して頂けます。
- 4 **退団・退職後も継続**できます。



そのほか詳しくは、ホームページをご覧ください。